



2022年度 垂水市寄附講座

「自分を活かす新時代の働き方」

本学と地方創生に関する協定を締結している垂水市の寄附講座が6年目を迎えました。今年のテーマは「自分を活かす新時代の働き方」。垂水市の企業家を講師に招き、「地域から世界へ」の講義（担当：大久保幸夫学長）の中で全3回の寄附講座が行われ、垂水市でのフィールドワークも実施しました。



7月8日の閉講式では、尾脇雅弥垂水市長が「働くことは楽しいが楽しくなるまでには様々なことがある。困難や苦勞の先に本当のやりがいのある仕事がある。後ろ向きにならずに自分を信じて努力を続けてほしい」と学生へメッセージを送りました。

垂水市で課題解決型のフィールドワークを実施

垂水市寄附講座の一環で実施している課題解決型のフィールドワークが、6月18日と25日の2日間にわたって垂水市で行われ、経済学科の松本ゼミ（担当：松本俊哉准教授）を中心に23名が参加しました。

今回は「中学生の修学旅行誘致プランを考える」がテーマ。近年では修学旅行が、訪れた地域ならではのモノ・コトの体験を重視する探求学習の機会となっています。そうしたニーズと垂水の地域資源を結びつけることを狙いとして、垂水市の地場産業や観光施設である道の駅などを視察し、地域への理解を深め、地域の特色を活かした誘致プランを提案しました。

6月18日は、垂水市にある温泉水の製造・販売を手掛けるエスオーシー株式会社と株式会社財宝の商品や業務内容について、さらに垂水市役所職員より地域振興や観光振興に取り組む市役所の業務などについて話を伺いました。

6月25日は、プリ冷蔵品の製造加工・販売を行うアクアブルー株式会社を訪問し、輸出量日本一を誇る垂水のプリの養殖について話を伺い、漁場での餌やりを見学。観光拠点である「道の駅たるみずはまびら」では、道の駅の事業展開について話を伺って、地元の食材を使った海鮮丼を食し、「森の駅たるみず」へ移動。緑豊かな渓谷にある森の駅の施設を借りて、ワークショップを行いました。



ワークショップでは、初めに垂水市の尾脇雅弥市長の講話と本学の大久保幸夫学長のあいさつがあり、その後、3つのグループに分かれて、活用できる地域資源や地域の受け入れ体制、どのような中学生をターゲットにするかなど、様々な意見を出し合い、最終的にまとまった誘致プランを発表しました。

最後に、垂水市役所企画政策課長の二川隆志氏が「各グループが地域の資源を活かしたプランを発表してくれて参考になった。提案いただいたプランを実現できないか検討したい」と講評。経済学科3年の松元颯汰さん（鹿兒島修学館高校出身）は、「今後さらに調査を進め、他の地域と比較するなどして卒業論文にまとめたい。今回の貴重な経験を進路を考えることにも活かしていきたい」と振り返りました。





垂水市寄附講座概要と 受講生の声を紹介！



薩摩志史 絵付け師

室田 志保 氏

「全力人生！」

2022年5月27日実施

【概要】自身の全力人生から海外留学、薩摩ボタンや畜産との出会いを紹介。「目の前の壁を適当にすり抜けるか、乗り越えるか、方法は様々だが、簡単にすり抜けて終わるより、全力で当たって得た経験は、社会に出た時の強さになる。何でも全力で取り組むことはこれからの人生を豊かにする」



今回の講義（テーマ「全力人生！」）では、全力で何かをする経験は人の成長に直結し、人生を豊かにするための鍵になると感じた。私自身を振り返ると全力になってないと気付いた。簡単なことではないが、自分の納得がいく人生を送るために興味があることを追求し、全力で行動したいと思った。室田さんの薩摩ボタンの絵付け技術にも驚き感動した。

橋口 史佳 児童学科 2年 樟南高校出身

新型コロナウイルスや AI 技術の発達に伴い、将来、自分がどのような仕事や働き方をしているのか想像がつかなかったが、実際に自分らしい生き方を全力でしている室田さんの話を伺い、視野を広げることができた。地方に住んでいても自分らしく働けると考えを改め、今の時代を生き抜く力を大学で身につけたいと思う。

濱田 結 経営学科 1年 鹿児島情報高校出身

株式会社さかや

代表取締役 川井田 守 氏

「半生を振り返って」

2022年6月10日実施

【概要】32歳で垂水市へUターンし家業を継承。「『目標がない』という言葉は様々な経験が足りないから出るもの。例えば地元の行ったことのない場所へ行ってみたい、やったことのないことに挑戦してみたりすると、自然とやりたいことが見つかる。ぜひ多くのことに挑戦してほしい」



自分を活かすということは、まず自分を大切にしておくことが大切だと思った。好きなことを仕事にできるように大学時代に自分と向き合い、様々な経験を積んで引き出しを増やしていきたい。垂水市にはぶりやカンパチ、焼酎など魅力ある特産品があるだけでなく、地元の方が協力して地域を盛り上げようと活動する姿勢にも魅力を感じた。

盛 友愛 児童学科 2年 喜界高校出身

チャンスを見つけ、数多くの経験を積むことが、自分を活かす働き方に繋がっていくのではないかと。DX 推進など時代が変化する中で何が出来るのか。『無いもの』を創造することは困難だが、『有るもの』からヒントを得て何かを創り出すことは可能かもしれない。自分の当たり前にとられるのではなく、他者と触れ合い様々な価値観を知り、地域に貢献したい。

牧枝 花音 児童学科 1年 鹿児島南高校出身

株式会社川畑瓦工業

代表取締役 川畑 瑠花 氏

「自分を活かす新時代の働き方」

2022年7月8日実施

【概要】若くして家業を継ぎ代表取締役となったことは、従業員のために責任をもって会社を守るトップの役割や従業員の大切さに気付く大きな転機となった。「私の職業観は『この仕事で人を救っている』という使命感を持って仕事をする。たった一度きりの人生で必ず通る『働く』という経験を素晴らしいものにしてほしい」



瓦の歴史が長いことに驚き、種類や機能を知ることができて興味を持った。なぜ仕事をするのかという問いに、私は毎回考え込んでしまうが、「自分の人生の価値を高めるのが仕事である」と聞いて共感した。ただ仕事をするのではなく、誇りをもって仕事に熱中することの方がずっと楽しいと思う。まずは充実した大学生活を送ってきたい。

野島 大海 経済学科 1年 国分高校出身

年齢の近い川畑さんから仕事のことや代表取締役になった経緯を聞き、将来について身近に考えることができた。「職人としてずっと技術を磨いていく」という言葉が印象的で、私も誇りをもって働ける大人になりたいと思った。何のために働くのか、どのような生き方が正しいのかなど答えの見えない深い問いを、自分なりに考えることができた。

瀬戸口 陽斗 経営学科 1年 鹿児島南高校出身